

事業所名： グループホーム ゆい八木沢

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200376		
法人名	合同会社 ライフサポート・ゆうゆう		
事業所名	グループホーム ゆい八木沢		
所在地	〒027-0031 岩手県宮古市八木沢四丁目5番33号		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム近隣に同事業所のグループホームを運営しており、お互いのホームを行き来もあり、ほっこりとする繋がりがあります。家庭的な雰囲気の中で、利用者様お一人お一人に合わせたご自身のペースで動いていただけるように心掛けております。その方の得意とする家事活動等では、食事の準備、味見、配膳、下膳、洗濯物たたみなど可能な限りその方に合わせた内容をお手伝い頂きます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は民家や畑が点在する穏やかな環境にあって、市街地に近く利便性が高い所にある。同一会社が経営する隣接グループホームやデイサービスなどの在宅サービス事業所と連携し、一体的に事業を運営している。運営に当たっては、理念である「つながりを大切に、寄り添い」に基づいたサービスの提供に心掛けている。職員は入居者の希望や意向を理解しようと努力しており、入居前にはケアマネ、家族、他の事業所から地域社会との関係情報を収集したり、入居後も本人との暮らしを通じて把握に努めている。意向を把握しにくい入居者には、昔話を通じたコミュニケーションや表情を見ながらの対話を行いながら意向を聞き出している。入居者は、入居後も馴染みの美容院の継続利用や外出時の隣家の方との交流など、地域社会とのつながりを維持しており、中には親子関係が再構築された方もいる。食事は手作りをモットーとし、入居者の希望を考慮したメニューを提供している。事業所の小さな畑で育てた野菜を食卓に出したり、季節の旬なものを取り入れながらの食事が提供されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで唱和し、常に心に留めるようにしています。介護理念はホールに掲示しております。	理念は、地域密着型サービスの意義を含み、事業所独自に作り上げたもので、朝のミーティングで唱和し、ホールに掲示している。計画作成担当者は特に「繋がり」に焦点を当てている。毎月の所内会議では、入居者の変化を話し合うなか実践場面を振り返り、理念のケアへの反映も確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	5月に八木沢神社のお祭りへ参加しようと思いましたが悪天候のため中止となりました。コロナウイルスも5類となったので今後は地域との交流機会を増やしていきたいと思っています。	コロナ禍前は敬老会や神社のお祭りにも出かけていたが、感染予防のため地域との交流は制限していた。それでも、地域の方々が畑や花壇の手入れを手伝ってくれ、入居者との交流もある。地域の方にとって、介護について職員に尋ねた際にも、職員が親切に対応してくれることに安心感を抱いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に同事業所のゆうゆう茶屋があり、地域の方も利用できることを紹介しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月より通常通りの運営推進会議を開催しております。	コロナ禍の影響で書面開催が多かったが、令和5年度から集合開催に戻っている。会議は地域関係者も参加して他の事業所と合同で行い、入居者の状況やヒヤリハット、事故報告などを議題に意見交換が行われている。委員から感染症や熱中症対応への意見が出ており、実践に繋げている。	運営推進会議には、事業所の応援団となっていたための取り組みが期待される。お願いしたい内容を明確にして協力を依頼し、多くの情報や意見をいただけるような工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括職員の方も関わりを頂いている。市町村担当者とはメールや電話での連絡を頂いております。	地域包括支援センターの職員は運営推進委員として、会議に参加し、意見交換を行っている。担当課とのコミュニケーションは主にメールや電話で行われ、介護保険制度の改正や加算に関する行政情報の提供を受けている。市主催の研修会や地域医療・介護合同研修などに事業所からも参加している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で「身体拘束ゼロへの手引き」を施設内研修で勉強する機会を持っております。身体拘束を理解しスピーチロックを再確認、意識するようにし身体拘束のないケアに努めます。	経営者が参加する所内会議で身体拘束に関する勉強会を行い、認識の共有を図っている。入居者のなかには便意が理解できず不穏になる方もいるが、腹部マッサージや下剤などで排便対応を行うことで不穏の軽減を図っている。玄関は夜間だけ防犯目的で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての所内研修を行い、虐待の定義、実態、対策などについて学ぶ機会を設け、虐待防止に努めて参ります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居される方で権利擁護を利用されている方はおりません。今後研修する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、家族や利用者に不安が残らないように説明しています。疑問があった場合にはその都度説明、理解を頂くように努めてまいります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に外部の苦情、相談の窓口を説明しております。家族の来訪時に要望や意見を伺うようにしております。	日常生活の中で意見要望を聞き取り、食べたい物は調理担当の職員に伝えて献立に反映させて提供している。家に行きたいとの希望は家族と調整し、外出希望は全員参加での紅葉ドライブを計画して具体化している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の際、日々の申し送りの場で何か問題が起きた場合には、話し合いの場を設けて職員からの意見、要望を聞く機会を設けております。	管理者は朝のミーティングや毎月の所内会議で職員の意見や提案を受け、必要に応じ経営者に報告している。車椅子利用者が増えたため、車椅子を増やったり、一人掛けソファを増設するなど、職員の提案を具体化している。代表や管理者は現場職員と協力して、支援の在り方などを話し合っている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい環境づくりを常に考え努力して頂いています。年に1回は代表社員を含めた役員と職員の面談を行い、就業環境についても個別に話し合いをしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議に研修を実施しています。外部の研修にも少しずつ参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集団実地指導に参加し、市内の介護施設の方々と情報共有をしました。グループホーム協会の研修会、勉強会に参加し情報共有に努めます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け環境に慣れるまではそばに付き添い、必要に応じて家族より協力を頂き、生活に慣れて安心して過ごせるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から情報や意向を聞き、より良い関係を築けるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に本人、家族より情報を頂きカンファレンスを行い、サービス内容を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者より「手伝いますか」と声をかけてくださることがあり、配膳、下膳、茶碗拭き、洗濯たたみ等の日課を一緒に行っております。		

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回、ホーム内での様子を伝える手紙を送っています。通院時の付き添いをお願いしたり、利用者の対応について家族に相談しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスが5類になったことで今後外出する機会を増やしていきたいと考えております。面会は玄関先ですが15分程度おこなっております。	入居前にはケアマネ、家族、他の事業所から地域社会とどのように関わってきたかを把握し、入居後も日常生活を通じて収集に努めている。また、馴染みの美容院の継続利用や外出時の隣家の方との交流など、地域社会との繋がりを大切にしており、中には親子関係が再構築された入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のお互いの関係を把握した上で、食事の席替えをしています。利用者同士で声を掛け合い、手伝おうとされたり、不安を訴える方の話を聞いて寄り添ってくださる方もあり良い関係を築けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院されサービス終了後の利用者に、今後のサービスなどについて、相談に乗り、支援に努めています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の思いを把握し、直接本人の声を聞くようにし、聞き取りをするようにしています。	職員は入居者の希望や意向の理解に努めている。意向を把握しにくい入居者には、昔話を通じたコミュニケーションや表情を見ながらの対話を通じ、意向を聞き出している。入居者の意向は、ミーティングや所内会議で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中からこれまでの過ごし方や習慣などを知り継続できる部分は維持できるようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日3回バイタルチェックを実施している。食事と排泄チェックをiPadに入力し身体の調子や排泄リズムを確認する。ケース記録も同様に午前、午後、夜間帯の様子やその時の行動について記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、本人、家族の意向を確認し計画を作成している。毎月の所内会議で介護計画を職員に確認してもらい、ケース検討の機会をもうけています。	計画作成担当者は、職員と協力し入居者本人と家族の希望を考慮した介護計画を策定している。カンファレンスには経営者と管理者も参加し、状況に応じた対応策を協議している。介護計画の見直しは、要介護度の変化、入院、身体機能の変化などを考慮し、現状に即したものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の日誌をiPadへ記入し、気づいた事はミーティングノートに記入します。職員間の情報共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々々の要望に臨機応変に対応できるよう努めます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会に地域の踊りの団体を久しぶりに呼ぶ予定です。少しずつ地域の方々との関わりを持っていきたいと思えます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医を継続されており、通院時にはホームでの様子を主治医へ報告しております。体調等で気になるときはかかりつけ医に電話相談しています。	全ての入居者は、入居後も自身のかかりつけ医や希望の病院を受診し、通院には家族が同行している。受診時には、職員が作成した健康情報を家族に提供して医師に伝え、受診結果は管理者や計画担当者に報告され、情報の共有は円滑に行われている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化、情報などあれば、訪問介護と連携相談し、専門医の受診や指示を受けています。急変時などには、適切な指示を頂けるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急時に対応できるように利用者の情報を医療機関にて提供できるように利用者情報を作成している。通院時にもホーム内の様子を文章で報告しています。管理者と医療機関との入院時連携が取れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りを行えることを説明しています。看取りの実績はありません。終末期のあり方について職員が本人や家族と話ができるように努めます。また、職員に対して看取りについての研修も予定しています。	入居の際に重度化や看取りについて、本人や家族に説明している。看取りの実績や経験がないことも家族に説明し、事業所でできることを説明しながら方針を共有している。状態の変化の度に家族に状況を説明しながら家族と話し合いを重ねている。入居者の健康管理には、かかりつけ医や訪問看護、訪問薬剤師と連携して取り組んでいる。	重度化した場合に「できること」と「できないこと」を明らかにし、事業所として何を準備すれば入居者への支援が可能になるのかを話し合い、研修を通して職員の心構えを確立していくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習、訪問看護より急変時の対応の研修を受けて、実践力をそれぞれ身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回避難訓練を実施しています。火災、水害の日中、夜間を想定した訓練を実施しております。	事業所は、ハザードマップで洪水による浸水予想エリアの境目付近に位置しているため、まずは2階への垂直避難を想定している。防災訓練は、火災想定と地震・水害想定、119番の通報訓練など様々な多様な訓練を2ヵ月毎に行っており、会社内の職員の協力に加え、近隣住民の参加も得ている。近接のグループホームとも、共同で訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個別です。排泄、入浴の介助や見守り、居室へ訪問する際には利用者に声掛けをしてから行えるようにしています。	入居者の多くは市内の出身者であり、地元の言葉や語調を交えて会話しているが、馴れ馴れしくならないよう気を付けている。入居者から昔の事を聞く場合には、お話を途中で切らないようにしている。ゆっくりはっきりと話すようにし、難聴の方が多いため、耳元で話すよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えやその日の着る洋服を本人に選んで頂き4名の方は職員と一緒に用意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間を特に決めておらず、本人のペースで過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時や外出時には、衣類をできるだけ本人から決めて頂いております。散髪を希望される方がおり、外部より床屋さんを頼んでおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、盛り付け、配膳、下膳、おしぼり用意、茶碗拭きなどもその方に応じた内容を職員と一緒に行って頂いております。	献立作成と調理は2人の職員が交代で行い、入居者の希望を考慮したメニューを提供している。入居者は食材の下ごしらえや洗浄、食器拭きの手伝いを行っている。事業所の小さな畑で野菜を育てて食卓に上げたり、誕生会で自分が食べたい物を調理担当者に話す方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はiPadに入力して確認しています。その日の体調に合わせて食べやすい状態で提供しています。好き嫌いを把握し、制限のある方には別献立を提供し配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいを促しています。なるべく自分のできる部分を促して行くようにしています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁する前にトイレに行けるようにiPadの排泄チェック表を確認して声がけを促しています。日中、夜間とも声がけをして誘導しています。	排泄サインを確認しながら排泄チェック表を活用し、タイミングをみて耳元で声かけてトイレに誘導している。なるべくオムツ使用にならないよう、残存能力を活かしながらの介助を意識している。排泄で失敗した場合には、周りから気づかれないよう配慮したり、さりげなく処理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルトを毎日提供しています。水分、食事量、便秘の有無を確認しています。体操、レク活動を行い自主的に歩行練習されている方もおります。それでも便秘の方は週2回訪問さんが来訪された際腹部の張りを確認後浣腸をして頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回入浴できるようにしております。拒否される場合には時間を置いて再度声掛けをしますが、無理をせず他の方に声をかけて入浴して頂けるようにしております。	入居者は週に3回ほど入浴し、お湯の温度を好みに合わせている。入浴は、のんびりと利用できるよう心がけ、温泉成分入りの入浴剤を使ったり、菖蒲湯や柚子湯を楽しむこともある。入浴を嫌がる場合には声かけや職員を替えるなど工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様にはなるべく日中に活動して頂き、夜間にぐっすりとお眠できるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルにまとめ、職員がいつでも見られるようにしております。服薬とバイタルチェック表を用いて症状の変化を確認しています。訪問看護には通院時薬の変更になった際には情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業、花の手入れ、洗濯たたみ、折り紙など自身の得意なことや興味のあることの先生になって頂き、職員と共に行っています。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら散歩、ドライブなどを行っております。	天気の良い日には建物の周辺を歩いたり、地域の方々と畑作業や花壇の手入れもしている。また、ウッドデッキで外気浴を楽しむ方々もいる。通院時には家族と一緒に寿司を楽しんだり、実家に立ち寄りしたりする方々もいる。また、ミニドライブも行っており、コロナ禍の収束後には入居者と共に買い物に出かけたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者より買い物希望があれば、その都度職員が対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時にはやり取りができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を確認し温度は23～25度、湿度は40%～60%になるようにエアコン、加湿を使用し調整しています。	エアコン、加湿器によって快適な温度、湿度が管理されている。ゆったりとしたソファが配置され、利用者は好きな場所で思い思いに過ごしている。季節に合わせた折り紙作品が飾られ、七夕には願いごとを記入した短冊を飾ったり、秋には散歩の時にとってきたすすきを飾ったりと、季節を感じるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、その時の気分で好きな場所に座り、テレビを見たり、会話されたり、折り紙をしたりと思い思いに過ごさせています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは各部屋に備え付けてあります。誕生日カードや塗り絵作品を飾ったり、家族写真を飾っている方もおられます。	各居室にはエアコン、ベッド、チェストが備え付けられている。テレビや位牌、家族写真など持ち込まれた物は本人の希望により配置されている。自分で作った折り紙などの作品や写真などが飾られている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面には段差がありません。居室の扉が少し開けにくい方には、お手伝いしております。廊下の手すりを使用し歩行練習をさせております。		